

令和7年度 全国学力・学習状況調査の結果

京都市立西京極小学校

4月17日に全国の6年生を対象に実施された「全国学力・学習状況調査」について、本校の結果をご報告いたします。



○ 教科に関する調査の結果

国語科・理科の平均正答率は全国平均を大きく上回る良好な結果でした。しかし、算数科は全国平均を下回りました。設問別に正答率をみると、国語科・理科、どちらの教科においてもほとんどの設問で全国平均を上回っています。特に理科は正答率が全国平均よりも10ポイント以上上回っている設問が5問ありました。

また、全国的に記述式の問題における正答率が低くなる傾向がありますが、本校では3教科ともほとんどの記述式の問題において正答率が全国平均より高い結果となり、10ポイント以上も高い問題もありました。無回答率もほとんどの問題で全国平均と比べて低い数値でした。このことから、子どもたちが粘り強く一生懸命取り組んでいることが分かります。

国語科より

思考力、判断力、表現力等における読むことに関する3三(1)の「目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けることができるかどうかをみる」問題においては全国平均をわずかに上回っているものの、低い正答率となっています。表の中から必要な情報を読み取った内容と、文脈を正しく理解した内容を関連付けて、ふさわしい選択肢を選ぶことに課題があります。また、同様の3二(2)の「事実と感想、意見などとの関係を叙述を基に押さえ、文章全体の構成を捉えて要旨を把握することができるかどうかをみる」問題においても、低い正答率となっていました。文章全体の構造と内容を把握するという点において課題がありました。読書活動を充実させることで子ども達の読解力を高めていきたいと考えています。

対して、書くことに関する2三の「目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりするなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができるかどうかをみる」問題では、全国平均を10ポイント近く上回っています。記述式ながら、条件を満たして自分の考えを伝えることができることが分かります。知識及び技能における2四(ア)・(イ)の言葉の特徴や使い方に関する事項の「学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使うことができるかどうかをみる」問題では、8割を超える正答率でした。ICTを活用する中でも、正しい漢字を選択する力が必要となってきます。今後も引き続き書いた文章を読み返し、意味を捉え、漢字が正しく使えているかを確かめる習慣を付けていきます。

算数科より

算数科においては分数や割合、図形についての本質的な理解が課題であると考えられます。図形の2(2)の「台形の意味や性質について理解しているかどうかをみる」問題では、全国平均と比べてかなり低い正答率となっています。様々な向きで示された四角形の中から台形を選ぶという問題でしたが、少なくとも一組の対辺が互いに平行であることという台形の性質が理解できていないため、方眼紙に書かれていることに目をつけることができず、台形の向きが変わると正しく選択できていませんでした。同じく2(4)の「基本図形に分解することができる図形の面積の求め方を、式や言葉を用いて記述できるかどうかをみる」問題では、五角形を2つに分けて面積を求める方法を説明することが求められました。しかし、図から必要な長さを見い出して式や言葉を用いて記述することができていませんでした。今後授業の中で、それぞれの図形を構成する要素や性質を正確に理解したり、図形の面積を求める際に、ただ公式に当てはめて計算するだけではなく、どのように面積を求めたのかを式や図、言葉で表したり説明したりすることを今まで以上に大切にしていきたいと思います。また数と計算の3(3)の「数直線上で、1の目盛りに着目し、分数を単位分数の幾つ分として捉えることができるかどうかをみる」問題もかなり低い正答率となりました。示された分数が「1」を何等分しているのかを捉えることができていないと考えられます。分数の学習では「1」を何等分してそれが幾つ分あるのかを意識したり、説明したりできるようにしていきたいと思います。

理科は国語科同様全国平均を上回る良い結果となりました。しかし「エネルギー」・「粒子」を柱とする領域の②(1)の「身の回りの金属について、電気を通す物、磁石に引き付けられる物があることの知識が身に付いているかどうかをみる」問題においては、かなり正答率が低くなりました。アルミニウム、鉄、銅について、電気を通すか、磁石に引き付けられるかを選ぶ問題ですが、これらの金属のいずれかが電気を通さないと誤って捉えていると考えられます。自然の事物・事象と実際の生活とを関連付けたり、実験を充実させたりして理解を深められるように授業を改善していきたいと思います。また、「生命」を柱とする領域の③(4)の「レタスの種子の発芽の条件について、差異点や共通点を基に、新たな問題を見出し、表現することができるかどうかをみる」問題においても、全国平均を上回っているものの低い正答率となりました。記述式の問題ですが、「～はなぜだろうか。」というような疑問を示すような表現となっていない解答が多く見られました。実験を行う際には、複数の事前の事物・現象を比較し、差異点や共通点を捉え、新たな問題を見出ししていくことの重要性について意識して授業の改善を行っていききたいと考えています。

その一方で、「地球」を柱とする領域の④(3)の「赤玉土の粒の大きさによる水のしみ込み方の違いについて、赤玉土の量と水の量を正しく設定した実験の方法を発想し、表現することができるかどうかをみる」問題については、高い正答率となっていました。実験を行う際にいくつか条件がある場合は、一つだけ条件を変えてほかの条件は変えないということを理解していることがわかります。今後も実験を行うだけでなく、なぜその実験を行うのか、どのような実験を行えば自分たちのたてた予想を確かめることができるのかを意識した授業を行っていききたいと考えています。

○ 児童質問紙による調査結果 ～児童質問紙から見てくる子どもの様子～

西京極小学校の子どもたち

みんな いきいき えがお いっぱい頑張っています！

勉強することは大切！

- 国語の授業で学習したことは将来役に立つ
- 算数の授業で学習したことは将来役に立つ
- 理科の授業で学習したことは将来役に立つ

人や社会の役に立ちたい！

- 人が困っているとき、進んで助けている
- いじめは、どんな理由があってもいけないことだ
- 人の役に立つ人間になりたい
- 将来の夢や希望をもっている
- 地域や社会をよくするために何かしてみたい



学校はとても楽しく、

みんなと協力しながら学んでいる！

- 自分には、よいところがある
- 学校に行くのは楽しい
- 先生は、自分のよいところをいつも認めてくれる
- 友だち関係に満足している
- 授業や学校生活では、友だちや周りの人を大切にして、お互いに協力しながら課題の解決に取り組んでいる
- 学級では、学級生活をよくするために学級会で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法を決めている
- 道徳の授業では、自分の考えを深めたり、学級やグループ活動で話し合ったりする活動に取り組んでいる
- 普段の生活の中で、幸せな気持ちになることがよくある

自分で、学ぶ力を高める

- 5年生までに受けた授業で、PC・タブレットなどの ICT 機器を、よく活用していた
- PC・タブレットなどの ICT 機器でこんなことができるようになった
 - ・文章を作成すること
 - ・インターネットを使って情報を収集や整理すること
 - ・発表のスライドを作成すること
- 5年生までに受けた授業は、PC・タブレットなどの ICT 機器を活用することで、
 - ・自分のペースで学習を進めることができる
 - ・わからないところをすぐに調べることができる
 - ・楽しみながら学習を進めたりよく理解できたりする
 - ・自分の考えや意見を分かりやすく伝えることができる
 - ・友達と協力しながら学習を進めたりすることができる
- 5年生までに受けた授業は、自分にあった教え方、教材、学習時間になっていた

※質問紙の結果で、特に全国平均よりも高い項目もしくは、肯定的回答率が高かった項目を示しています。

今回の全国学力・学習状況調査の結果、本校の平均正答率は国語科と理科において全国平均を上回る良好な結果となりました。これは、子どもたちのがんばりと、PTA・保護者・地域の皆様のご理解とご協力のおかげだと考えています。しかし、子どもたち一人一人の結果にはそれぞれ課題も見られます。

学力の基盤となる望ましい生活習慣や日々の学習習慣は、家庭、地域のご理解とご協力が不可欠となります。今後ともご協力をどうぞよろしくお願いいたします。